

- PART 1 〈劇場版「ガムラン 曼荼羅」〉**……藤枝 守◎[ガムラン 曼荼羅 1]〜劇場版初演(2018-2022)
[演出]……バラグナhakata(ガムラン)＋ボヴェ太郎(舞踊)
- PART 2 〈ガムラン・コンチェルト〉**……藤枝 守◎ソロ楽器とガムランのためのコンチェルト(2018)
二つのソロ楽器とガムランのためのダブル・コンチェルト(2020)
ピアノとガムランのためのコンチェルト(2022、新作初演)
[演出]……バラグナhakata(ガムラン)＋古川勇太(ホルン)＋友松 愛(ピアノ)＋太田耕平(リュート)＋
松岡祐美(バイオリン)＋中村理恵(ハープ)＋砂原 悟(ミニピアノ)
- PART 3 〈ガムランの般若心経〉**……藤枝 守◎ガムラン版「植物文様第27集台湾茶の植物文様」(2018)
ガムラン版「オリーブのラウンド」(2008-15)
……読経「般若心経」……藤枝 守◎植物文様第21集「pattern B」〜弦楽三重奏版(2010)
ガムラン版「歌づけ般若心経」(2012)
[演出]……バラグナhakata(ガムラン)＋末廣正栄(読経/天台宗)＋松石恭子(歌唱)＋
松岡祐美(バイオリン)＋友松 愛(ピアノ)＋宇野健太(チェロ)
- PART 4 〈共鳴するガムラン〉**……藤枝 守◎ガムラン・エチュード「虹がみえたよ」(2019) ……Go On協同作品◎華(2021)
[演出]……ガムラングループ「Go On」＋福岡ガムラン倶楽部「LOU」＋バラグナhakata(全てガムラン)

photo=園田裕美(九州大学箱崎サテライト/旧工学部本階展望室)

●「福岡の街にガムランを響かせる!」をモットーに、
今年はいじめて福岡で開催される「ガムラン・フェスティバル」。
古来よりアジアからさまざまな文化が押し寄せてきた
福岡という土地に、アジアを象徴するガムランの響きが
一週間にわたって鳴り続けます。

〈福岡〉の街にガムランを響かせる……!

●今回、登場するガムランはインドネシア・スダ(西ジャワ)の
「ガムラン・ドゥグン」と呼ばれる楽器編成。
ジャワやバリに比べるとひとまわりも、
ふたまわりも小ぶりですが、
ガムランのエッセンスがしっかりと凝縮されています。
じつは、この「ドゥグン」のガムラン・セットが
福岡には二つもあります。
そして、この楽器編成による「バラグナhakata」
「LOU」「Go On」という三つのガムラン・グループが
演奏活動しているのです。

●今回、この三つのグループが「堂に集結し、
独自にガムランを響かせていきます。
ガムランには、人と人をつなげ、人と土地とを
一体化させる不思議な力がそなわっています。
それは、「叩く」というシンブルな行為から
金属音が呼び出され、その金属音は
響き合ううちに、身体の数から抜けだし、
すべてが浸透し合う世界が広がるのです。
●「曼荼羅」、「コンチェルト」、「般若心経」、そして
「其鳴」と結びつきながら展開する
四つのガムラン公演をお楽しみください。

藤枝 守 音楽監督

2022年
11月29日 火 — **12月4日** 日
福岡アクロス円形ホール・
福岡アジア美術館アートカフェ

PART 1 〈劇場版「ガムラン 曼荼羅」〉 ●2回公演●
| **11月29日 火** | 開演 **15:00**(開場 **14:30**) / 開演 **19:00**(開場 **18:30**) | アクロス福岡円形ホール

PART 2 〈ガムラン・コンチェルト〉 | **12月1日 木** | 開演 **19:00**(開場 **18:30**) | アクロス福岡円形ホール

PART 3 〈ガムランの般若心経〉 | **12月2日 金** | 開演 **19:00**(開場 **18:30**) | アクロス福岡円形ホール

PART 4 〈共鳴するガムラン〉 | **12月4日 日** | 開演 **14:00**(開場 **13:30**) | 福岡アジア美術館アートカフェ

[主催]……NPO法人日本ガムラン音楽振興会
[制作]……マイルストーン・アートワークス福岡 [音楽監督]……藤枝 守 [音楽ディレクター]……渡辺 融 [舞台監督]……ナガシマヨシホ
[協力]……社会福祉法人 明日へ向かって、イェナコーヒー＋ロンホア [後援]……インドネシア共和国大使館 [デザイン]……新保 祖香
お問い合わせ | マイルストーン・アートワークス福岡 | 〒810-0023 福岡市中央区警固1-15-15-405
Tel. 090-3295-6912 (ナガシマ12:00-18:00) mail. fukuoka@milestone-art.com



共鳴するガムラン

砂原 悟

ボヴェ太郎

総勢30名以上によるガムラン。
その響きが織りなす文様が
あらゆるものを
つつみこむ……

【入場料・会場】

PART 1 〈劇場版「ガムラン 曼荼羅」〉●2回公演●

11月29日 火 | 開演 15:00 (開場 14:30) | アクロス福岡円形ホール

| 開演 19:00 (開場 18:30) | アクロス福岡円形ホール

¥3,000 (前売り ¥2,500) ¥1,500 (配信)

PART 2 〈ガムラン・コンチェルト〉

12月1日 日 | 開演 19:00 (開場 18:30) | アクロス福岡円形ホール

¥3,000 (前売り ¥2,500) ¥1,500 (配信)

PART 3 〈ガムランの般若心経〉

12月2日 金 | 開演 19:00 (開場 18:30) | アクロス福岡円形ホール

¥3,000 (前売り ¥2,500) ¥1,500 (配信)

PART 4 〈共鳴するガムラン〉

12月4日 日 | 開演 14:00 (開場 13:30) | 福岡アジア美術館アートカフェ

¥1,500 (1ドリンク付き) ▶小学生以下無料 (要ドリンク代) ¥1,000 (配信)

【チケットの取り扱い・お問い合わせ】

▶チケット申し込みフォーム

https://milestone-art.com/html/contact-22gamelan.html

▶Peatix
チケット申し込み
フォームお問い合わせ | マイルストーン・アートワークス福岡 | 〒810-0023 福岡市中央区警固 1-15-15-405
Tel. 090-3295-6912 (ナガシマ12:00-18:00) mail. fukuoka@milestone-art.com

【会場のご案内】



アクロス福岡円形ホール | 福岡市中央区天神 1-1-1

●地下鉄空港線「天神駅」下車、徒歩5分(16番出口直結) ●地下鉄七隈線「天神南駅」下車、徒歩7分(5番出口)

●西鉄バス「アクロス福岡・水鏡天満宮前」下車

福岡アジア美術館アートカフェ | 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7階

●地下鉄「中洲川端駅」下車、6番出口より徒歩すぐ ●西鉄バス「川端町・博多駅前」下車

PART 1 〈劇場版「ガムラン 曼荼羅」〉

【演目】……………藤枝 守●「ガムラン 曼荼羅 I」～劇場版初演(2018-2022)

【出演】……………パラグナ hakata (ガムラン) + ボヴェ太郎 (舞踊)

●円形舞台の中央にゴングを据えて、それぞれの楽器は、ゴングを取り囲むように円環的に配することによって、ガムランの曼荼羅が舞台に出来上がる。この舞台の上で演奏される《ガムラン 曼荼羅》は8つの楽曲から構成された組曲で、2018年に初演された。今回は、円形ホールの舞台を最大限に活用したあらたな劇場版として初演される。「曼荼羅」という中心をもったエネルギー体。そのなかでガムランから放出される響きが陰陽の秩序のなかで絡み合い、円環的な時間が生み出され、そのなかから「響きの回廊」が出現する。その回廊の淵にそって、両性的な性格を変容する舞がゆつくりと迫る。

PART 2 〈ガムラン・コンチェルト〉

【演目】……………ルー・ハリソン●ソリストをともなうガムランのための三つの小品

……………藤枝 守●ソロ楽器とガムランのためのコンチェルト(2018)

二つのソロ楽器とガムランのためのダブル・コンチェルト(2020)

ピアノとガムランのためのコンチェルト(2022、新作初演)

【出演】……………パラグナ hakata (ガムラン) + 古川勇太 (ホルン) + 友松 愛 (ビオラ) + 太田耕平 (リュート) +

松岡祐美 (バイオリン) + 中村理恵 (ハープ) + 砂原 悟 (ミニピアノ)

●「世界は音楽の丸い連続体であるかのようである」とルー・ハリソンは語り、そして「音楽は複合的で、さまざまな価値を集めたハイブリッドなもの」と続ける。ホルンとビオラをソリストとした《ガムランのための三つの小品》は、ハリソンのハイブリッドの思考を具現化した「超民族的」な作品。そのハイブリッドな方向に触発された藤枝守のガムランをともなうコンチェルト形式の三つの作品を紹介。リュートやハープ、バイオリンといったソロ楽器がガムランによる響きの文様を綾取っていく。そして、砂原悟をソリストに迎えて初演される《ピアノ・コンチェルト》では、1948年に河合楽器が製作したミニピアノが登場。そのミニピアノがもつ単弦の響きがガムランに絡み合う。

PART 3 〈ガムランの般若心経〉

【演目】……………ガムラン・ドゥグン 古典曲……………藤枝 守●ガムラン版「植物文様第27集：台湾茶の植物文様」(2018)

ガムラン版「オリーブのラウンド」(2008-15)

……………読経「般若心経」……………藤枝 守●植物文様第21集「pattern B」～弦楽三重奏版(2010)

ガムラン版《歌づけ般若心経》(2012)

【出演】……………パラグナ hakata (ガムラン) + 末廣正栄 (読経／天台宗) + 松石恭子 (歌唱) +

松岡祐美 (バイオリン) + 友松 愛 (ビオラ) + 宇野健太 (チェロ)

●詩人の伊藤比呂美さんが10年ほど前に般若心経を現代語に訳出したが、その散文的なテキストにもとにした《歌づけ般若心経》は、これまでにさまざまな楽器編成で歌われてきた。そのなかでも、ガムラン版《歌づけ般若心経》は、わかりやすい言葉のひとつひとつがゴングなどの金属音の響きと混じり合い、その意味が鮮明に浮かび上がる。今回の公演では、《歌づけ般若心経》のまゑに天台宗の末廣正栄さんによる般若心経の読経とともに《歌づけ般若心経》の原曲になった《植物文様第21集-B》が弦楽三重奏によって演奏される。また、前半では、台湾大学の実験農場の茶樹から採取された電位変化データに基づく《台湾茶の植物文様 I》や《オリーブのラウンド》のガムラン版も演奏される。

PART 4 〈共鳴するガムラン〉

【演目】……………ガムラン・ドゥグン 古典曲

……………ルー・ハリソン●La Koro Sutro ～般若心経(1973) 松村由佳 編曲

……………藤枝 守●ガムラン・エチュード「虹がみえたよ」(2019) ……………Go On 協同作品●華(2021)

【出演】……………ガムラングループ「Go On」+ 福岡ガムラン倶楽部「LOU」+ パラグナ hakata (全てガムラン)

●フェスティバルの最終日は、アジア美術館アートカフェに舞台を移し、福岡で活動する三つのグループによってガムランの響きが共鳴するプログラムによってフィナーレを飾る。「パラグナ hakata」によるスダ(西ジャワ)のガムラン 古典曲から始まり、ルー・ハリソンの代表作《La Koro Sutro》が「LOU」によって演奏される。エスペラント語によるこのハリソンの「般若心経」は、もともとはアメリカン・ガムランによるものだったが、松村由佳によって「ドゥグン」に編曲され、合唱や廃材楽器も加わる40分ほどの大曲。さらに、長年ガムランを音楽実践の活動に取り入れてきた社会福祉法人「明日へ向かって」に所属する「Go On」によって協同作品「華」も披露される。ガムランによって多くの人たちが出会い、そして、つながりの輪がひろがる。さまざまな打ち鳴らされ、共鳴するガムランがアートカフェ全体を響きの渦に変容させていく。

〈ガムラン・ドゥグン〉について……………森重行敏
インドネシアは無数の島々からなり、それぞれ異なる言語や音楽文化を持つ多民族国家である。ガムランは金属製打楽器のアンサンブルで、ジャワが古くから中心地であったが、西ジャワ(スダ)には中部ジャワのような強力な王宮が成立しなかったため、さまざまな小編成ガムランが存在する。ドゥグンはスダの貴族階級に伝えられた儀礼用のもので、本来は舞踊や芝居には用いなかったが、戦後再整備されるとともに、新作も作られるようになった。元は器楽であったが、現在では歌曲も多く作られている。東隣のバリ島でも本来の大掛かりなガムランとは別に、ドゥグンがレストランなどのBGMとしてしばしば流されている。ドゥグンの音階はいわゆる沖縄音階に類似した五音音階で、ガムランでベロク音階と呼ばれるものの一種である。ところで、スダの歌には日本の箏や三味線にも似た音階もあり、ドゥグンの五音音階の中の一言を取り替えることにより、この音階(マドンガまたはソロク)を演奏することもできる。さらにあと一言追加すれば合計七音音階となっており、事実上の西洋音階も演奏できることとなる。ただしガムランの音階は金属楽器の特質として洋楽のような精密な音律ではなく、敢えてバツツキのある音律によって生み出される「うなり」の存在も欠かせない。今回、福岡と東京で活動するグループによって、ドゥグンのさまざまな可能性が提示されることにより、民族や伝統の壁を乗り越えた、新たな表現が期待される。

パラグナ hakata

1985年インドネシア・スダ(西ジャワ)音楽のグループとして結成された「パラグナ・グループ」は、東京を拠点にガムラン・ドゥグン、トゥンパン・スダの演奏活動を行っている。その「パラグナ」のメンバーが母体となり、福岡のガムラン演奏家と共に、「パラグナ hakata」が結成された。古典曲の他、ルー・ハリソン、藤枝守作曲の現代作品も精力的に演奏し、幅広い活動を展開している。2021年「リスニング・ミュージカム～博物館が聴く」(九州大学博物館)、「ガムランの午後」(福岡アジア美術館アートカフェ)に出演。YouTube「Paragunaチャンネル」を開設し、随時配信中。
http://www.paraguna.com
小谷竜一十後藤弓寿十小林賢直十佐藤紀子十光永誠十峰野誉久十村上圭子十森重行敏十石原鼓緒太

福岡ガムラン倶楽部「LOU」

国内には数少ないスダ(西ジャワ)の楽器を中心に結成された、地元福岡を拠点とするガムラングループ。ルー・ハリソンの影響を受けながら、2016年に本格的に活動を開始。スダの古典音楽や現代曲のみならず、アメリカや日本の新しいガムラン作品にも積極的に取り組んでいる。
Aris Priyo Susanto 十井野口貴子 十太貴慶 十岡崎峻十橋大也 十吉柳拓真 十財津靖子 十野馬慈 十原田麻衣子 十増田典子 十松岡涼子 十松村由佳 十光永誠 十渡辺融 ……他

ガムラングループ「Go On」(社会福祉法人 明日へ向かって)

2016年グループ結成。「社会福祉法人 明日へ向かって」のガムラングループ。2014年にインドネシア・スダ(西ジャワ)の「ガムラン」を導入し、施設の日中活動として音楽活動を開始。セッションやワークショップを通じ、ガムランによるオリジナルのメロディ創作や歌つけから楽曲を制作している。チーム名である「Go On」は、「go on(進む、継続する)」「五音(音階の数)」「蘇音」「御恩」そして「ゴーン(音)」という五つの言葉が重ねあわされている。
愛智一郎十財津靖子十佐々木梨沙十佐野優馬十滝下未沙十立石このみ十土井和哉十仁田脇拓也十浜田章十宮崎小乙理十渡辺亜由未十渡辺融 ……他

ボヴェ太郎 Taro BOVE | 舞踊

舞踊家・振付家。空間の(ゆらぎ)を知覚し、感応してゆく「聴く」身体をコンセプトに、歴史的建造物や庭園、美術館等、様々な空間で創作を行っている。主な作品に「不在の痕跡」、「余白の辺縁」、「百代の過客」、「CONATUS」等。能の古典曲を題材とした能楽との共演作品、西ジャワの古典歌曲トゥンパン・スダとの共演他。藤枝守作品「ガムラン 曼荼羅」初演(2020年)出演。

砂原 悟 | ミニピアノ

東京藝術大学卒業。同大学院、ミュンヘン音楽大学修了。1984年日本音楽コンクール入選。1987年ボルト市国際ピアノコンクール(ポルトガル)入賞。1988年クロイツァー賞受賞。京都市立芸術大学教授。2008年CD「クラヴィコードの植物文様」(藤枝守作曲)MAMレーベルよりリリース。2022年八尾町にて植物文様「第31集：八尾の椿」をミニピアノで新作初演。

古川勇太 | ホルン

福岡県福岡市出身・在住。福岡県立筑紫丘高等学校、九州大学芸術工学部音楽設計学科を卒業し、同大学院芸術工学府芸術工学専攻修士課程を修了。10歳よりフレンチホルンの演奏を始め、以降現在に至るまで管弦楽や室内楽などを中心に活動中。二児の父親であり子育てに奮闘しながら、防音室のある自宅にて日夜研鑽を重ねる。

友松 愛 | ビオラ

長崎大学教育学部音楽科卒業。同大学院修了。ビオラを川瀬洋、内田洋、坂口直美の各氏に師事。現在福岡を中心にオーケストラのエキストラや室内楽等で活躍中。響ホール室内合奏団ビオラ奏者。

太田耕平 | リュート

福岡出身。2001年よりイタリアに渡り、クラシック・ギターをヴィチェンツァ国立音楽大学にてS.グロドーナ氏に師事。2007年、当大学を最高点首席にて卒業。2008年よりドイツ、フランクフルト国立音楽大学にてリュートを今村泰典氏に師事。2014年、当大学を卒業。2016年に帰国、福岡を拠点に教授、演奏活動を展開している。

松岡祐美 | バイオリン

3歳よりバイオリンを始め、朝 望氏に師事。ソロ、室内楽、オーケストラ等で演奏活動をしてながら、後進の指導にも力を注いでいる。現在、アルモニオ管弦楽団コンサートマスター、コンセーラ・エクラン福岡メンバー。福岡音楽学院非常勤講師。



福岡ガムラン倶楽部「LOU」



ガムラングループ「Go On」